三河の昆虫

No. 19　1977年12月

〒448　刈谷市井ケ谷町
愛知教育大学昆虫研究室内
三河昆虫研究会　発行

第一プリント社　印刷
☎〈0564〉㉑4463

岡崎市産のギフチョウについて

杉坂美典

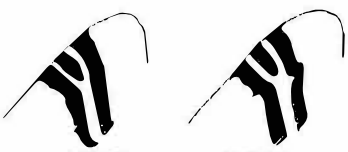
岡崎市でのギフチョウの採集記録には，明大寺町というのが残っている。以前は，明大寺町の丘に発生していたのである。今では，全くその面影もない。現在，確実に発生しているのは東部の山間のみで，発生地は極めて狭い。しかし，採集された地点は，発生地を中心にして，付近の丘陵地にかなり広く見られる。

発生数は例年，さほど多くないが，1976年には多数の個体が発生した。1977年は減少し，例年よりやや少ない発生数であった。

発生期は，4月上旬から発生し，5月上旬にも雌が見られることがある。本種の有名な多産地である谷汲より標高は低いが，約一週間，発生は遅れている。

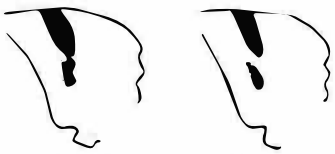
斑紋は，谷汲の個体（日本で最も黒化している。）に比して，次のような相異が見られる。

1. 前翅表面中室の外側のY字斑はよく発達し，Y字のIの部分がとくによく発達し外側にずれる傾向にある。（図1）



（図1）　谷汲産　岡崎産

2. 前翅表面亜外縁の黄斑列の先端の黄斑は，発達が悪く，消失する傾向にある。
3. 後翅表面亜外縁の青色斑はよく発達する。
4. 後翅表面後角の赤色斑はより大きく，赤色味が強い。
5. 後翅表面中央の黒斑は，谷汲産では連続する傾向にあるが，岡崎市産は分離する傾向にある。（図2）



（図2）　谷汲産　岡崎産

これらの相異は，谷汲，定光寺，豊田，岡崎，浜松の標本を調べたところ，クラインであることがわかった。

岡崎市に産するギフチョウの発生数は，その年によって多少の変動はある。しかし，ギフチョウの分布域が拡大することはあり得ないであろう。私たちは，郷土に残された貴重な生物を，少なくとも人間の手で滅してしまわないように心がけたいものである。

三河の甲虫雑報（1）

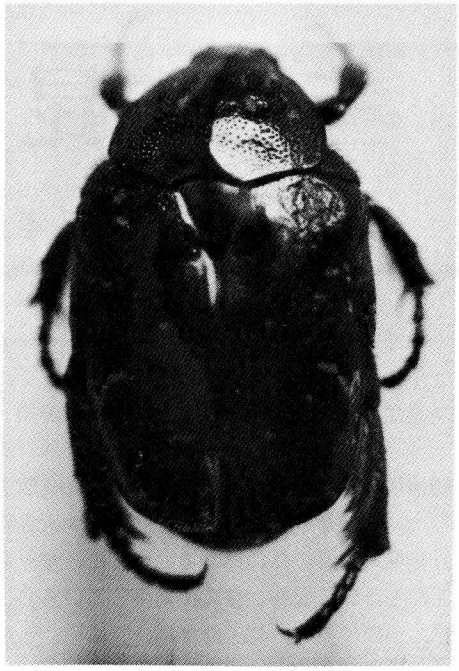
宝飯郡御津山の採集品について

山崎隆弘

御津山（標高97 m）は別名大恩寺山ともいわれ，古くからよく知られたところである。

大恩寺境内にはツブラジイの巨木が多くあり，天然林としてよく保存されている。また大原，（1971）の調査報告によると，大部分はツブラジイの優占する照葉樹林で，そのなかにアラカシ，クス，エノキ，ムクノキ，アベマキ，コナラが混入する暖帯林で，分布上県下では北限に近いと考えられるタイミンタチバナ，ミミズバイ，ツルコウジ，ハナミョウガの大群落などが自生し，キミズ，コクラン，イズセンリョウなど暖帯性の種が多いということである。

しかし標高が低く小面積のためか，昆虫については余り調べられていないようである。筆者は1977年の5月11日の午前中と，5月24日の午後の2回ここで採集を行った。その結果2,3の知見を得たので，その際得られた若干種と共に記録しておく。なお日頃ご多忙にもかかわらず暖かなるご指導をいただいている大平仁夫博士に厚くお礼申し上げる。



採集記録

1. ミカワオサムシ *Apotomopterus insulicola arrowianus* Breuning 1♂，24，V，1977.

御津山山頂付近で採集した。アオオサムシの亜種で，愛知・岐阜・三重の諸県に産する。採集した個体は体上面がやや緑色をおびた銅色で，脛節が黒いものであった。

2. ハネビロアトキリゴミムシ *Lebia duplex* Bates 1ex.，11，V，1977.

樹葉上に生活するゴミムシで，時には花上にもいる。

3. ヤマトデオキノコムシ *Scaphidium emarginatum* Lewis 1ex.，24，V，1977.

三河各地に産する普通種である。

4. コイチャコガネ *Adoretus tenuimaculatus* Waterhouse 1ex.，11，V，1977.

三河地方では最も普通のコガネムシで，5，6月頃クリ，クスギに多い。

5. キスジコガネ *Phylloperiha irregularis* Waterhouse 1ex.，11，V，1977.

山地では場所によって多産するが，平地ではやや少い種である。

6. キョウトアオハナムグリ *Protaetia lenzi* Horold （第1図）1♀，24，V，1977.

大恩寺境内のツブラジイの林の中で朽木上に静止していたところを偶然に見つけた。

雌は雄と異って被覆物がなく美しい濃緑色に輝く。本種は本州・四国・九州に分布し，三河地方では，伊藤昭博氏が石巻山で6頭を採集しており，また松野更一氏は，宮地山と豊川市で記録された。しかし当地方では珍らしい種である。しかも発生期は通常7～8月であるが，今回5月24日に成虫を得たのであるから，非常に早い採集例といえよう。

7. テントウムシ *Hamonia axyridis* Pallas 2ex.，11，V，1977

2頭とも上翅が黒地に黄紋が2個あるものであった。

8. ベニヘリテントウ *Rodolia limbata* Motschulsky 1ex.，11，V，1977

普通種である。

9. キバネホソキコメツキ *Dolorosomus gracilis* Candeze 2ex.，11，V，1977. 1ex.，24，V，1977.

コメツキ中最も普通種である。

10. アカアシオオクシコメツキ *Melanotus cete* Candeze 1ex.，11，V，1977

これも三河各所に普通で花に集まる。

11. アカハラクロコメツキ *Ampedus hypogas-*

tricus Candeze　2ex., 11, V, 1977.

成虫越冬をするので早春より出現する。

12. ヒゲブトゴミムシダマシ *Luprops sinensis* Marseul　1ex., 11, V, 1977.

和名がゴミムシダマシとなっているが，ハムシダマシ科の1種である。

13. タテジマカミキリ *Aulaconotus pachypezoides* Thomson　1ex., 11, V, 1977.

本種は成虫越冬をする種として知られており，本州・四国・九州に産する。三河地方では段戸山・豊橋市・蒲郡市・幡豆町で記録されている。成虫は7月頃から出現する。この個体は多分左の触角が中途で破損している点から，越冬後のものと思われる。したがって御津山は本種の越冬地として，適した環境といえよう。

14. ドウガネツヤハムシ *Oomorphoides cupreatus* Baly　13ex., 24, V, 1977.

本種はドウガネ色の原型とアオグロ色の *yuasai* 型があり，大野正男氏の調査資料によると *yuasai* の混棲の割合が日本海側要素が高くなるにしたがって多くなる傾向があるそうで，著者もこれに興味を持っている。今回御津山で採集した13頭はすべて原型のみであった。原型のみの非混棲地としては秋田県田沢湖畔，兵庫県淡路島が大野正男氏の調査結果で知られている。近くでは三重県神島や渥美半島もその傾向が見られるが，ここでの調査はまだ十分ではない。奥三河では両型の混棲地となっているが，*yuasai* の割合は低い。

15. シロオビアラゲサルハムシ *Damotina fasciculata* Baly　1ex., 11, V, 1977. 1ex., 24, V, 1977

三河各所の低山地に普通である。

16. ウスゲサルハムシ *Hyperaxis fascita* (Baly)　4ex., 11, V, 1977. 2ex., 24, V, 1977

御津山一帯に普通に産する。三河低山地にも普通。

17. サクラケブカハムシ *Pyrrhalta semifulva* (Jacoby)　1ex., 11, V, 1977

本州，四国，九州に産するが，4～7月に発生する普通種でサクラに多い。別名アカタデハムシともいう。

18. フジハムシ *Gonioctena rubripennis* Baly　1ex., 11, V, 1977. 2ex., 24, V, 1977

御津山で採集した3頭はいずれも *plagipennis* (Achard) といわれる黒条型であった。本種は翅鞘全体赤褐色の原型の他に，翅鞘に黒条を持つ *plagipennis* 型と翅鞘の大部分が黒い *penebrosa* 型の3つがあり，東海地方には原型及び *plagipennis* が見られる。三河地方にもこの2つの型が各所に見られるが，御津山では原型を見つけることができなかった。今回，採集頭数が3頭とわずかであるので何ともいえないが *plagipennis* ばかりとなると，非常に興味あるところといえよう。大野正男氏によると淡路島や山形県間沢での調査結果では全部原型であり，山梨県金峯山では20%が *plagipennis* であった。御津山ではおそらく原型は発見できると思われるが，興味ある課題である。

19. ヨツボシハムシ *Paridea quadriplagiata* (Baly)　1ex., 24, V, 1977.

暖地性の翅鞘に4個の黒紋を有する美しいハムシで三河各地に産すが余り多くない。

20. キバネミゾアシトビハムシ *Hemipyxis flavipennis* (Baly)　1ex., 11, V, 1977.

本種も三河各地に産する。

21. イチモンジカメノコハムシ *Thlaspida biramosa japonica* Spaeth　2ex., 11, V, 1977

日本産ジンガサハムシ科中，最も大型の種で，本州・四国・九州に産し，三河地方には普通。

22. ヒメクロオトシブミ *Apoderus crythrogaster* Vollenhoven　1ex., 11, V, 1977.

色彩に変化の多い種であるが，御津山のこの個体は肢，腹部が黄褐色の基本型であった。

23. ハギツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus nitens* Roelofs　2ex., 11, V, 1977.

体は光沢のある漆黒色をしている。暖地性で本州・四国・九州に産する。

24. シロコブゾウムシ *Episomus turrits* Cyllenhal　1ex., 11, V, 1977.

本種は瘤状の隆起が側面に並列する。三河各地に普通に産する。

主として叩網採集を試みたが，三河地方南部の他と比較して，種類，個体数ともやや少いようであった。これは大木が多いため叩網に適し

た場所が少かったこと，採集を5月だけによったこと。またシイの花に集まる種を道具がなかったために採集しなかったことがあげられる。しかしながら5月11日に *Aulaconotus pachypezoides* を，5月24日には *Protaetia lenzi* を得たことや，多型種として興味ある *Oomorphoides cupratus* 及び *Gonioctena rubripennis* など先にも述べたように注目される点があるので，今後も調査を重ねる必要がある。また三河南部の代表的な暖帯林である御津山は，ある種の甲虫類にとっては重要な生活の場になっていると思われるので，他の昆虫についてもよく調査されることを希望する次第である。

引用文献

大原準之助（1971）三河湾国定公園の植物第1集。

松野更一，他（1975）東三河の食葉性コガネムシ：三河の昆虫№12・13.

大野正男（1969）渥美半島のハムシ相：佳香蝶Vo1.21 №78：19-28.

大野正男（1970）淡路島のハムシ相(2)：兵庫生物第6巻第2号：150-152.

穂積俊文（1972）東海甲虫誌18報カミキリムシ科：佳香蝶Vo1. 24 №92.

山崎隆弘（1976）神島で採集した甲虫について：三河の昆虫№14：53-55.

伊藤昭博（1964）石巻山の甲虫類：虫譜V●1. 9. №1：4-23.

私と昆虫

村松 津葉沙

私は昆虫が好きで，昆虫とつき合い始めたのは小学校3年生の時からである。

夏休みの宿題に自由研究があり文字通り何んでもよいから一つ研究して提出しなければならなかった。私は困り小さな頭を絞った結果，昆虫採集に落着いたのです。勿論，初めての経験でしたから標本の作り方など知る訳もなかったのです。しかし学校の図書館には，昆虫類に関する本が多数並べ立ててあり誠に有難い限りでした。特に横山光夫氏が著された蝶類図鑑を魅入る私に時間など関係なかったのです。さて小さな頭に基礎知識を詰込んだ私は採集へと行動

を移したのです。幸い，右を見ても左を見ても緑一色の中で育った私はお金とか時間を果して有名採集地域へ出掛ける必要はなく，茶臼山や葦平地方などホームグランドに限られたので欲を言えば昆虫との熱烈な思い出は少なく平々凡々と今日までつき合って来た感じがする。

しかし，当時の私にとって網に入る蝶全て，空を舞う宝石として目に映ったから大変である。正しく小さな体はブレーキの壊れた汽関車の如く東西南北走り廻ったものである。さぞかし，蝶達から見れば大天敵現わると言った所でしょうか。夏休みも最終日が来る頃は標本箱の中はもう一匹も入る余地もない程でした。

そして始業式の当日，持参して担任の先生にお見せした所大変賞められた上，数日後，自由研究部門で表彰状も頂き小さな顔は綻びばっなしでした。

時世も移り変わり昭和50年社会人1年生となった私は，昆虫達とも離れた生活が続いているが忘れてしまうことはできないのです。今後，余暇ある限りアマチュア精神に則り，私なりの楽しみ方で昆虫人生を続けていきたいと考えている次第です。